



# だっこするよ

平成28年12月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

## 乳幼児期のアタッチメント

普段出会えない11月の初雪に驚きましたね。ゼロ歳ひよこ組から全クラス楽しみました。降っている雪にさわって、握って、踏んで、初雪を味わいました。自然は常に沢山の不思議や感動を用意してくれます。ワクワクして初雪を楽しんだのはこどもたちだけでは無かったようです。さあ、師走に入りました。日ごとに寒さも増してきていますが、こどもたちは元気に走り回り、まさに「こどもは風の子」地域へどんどん出かけ探検しています。落ち葉を踏む音、どんぐりがもう少なくなってきたこと…初冬の自然を教えてくれて、自然科学への芽を感じます。こどもたちの気付きは素晴らしいです。

先日からグループ面談が始まりました。ご参加有難うございます。来年度へ向けたお話しや園での様子をお伝えしています。「一人ひとりのこどもを大切に こどものための保育園へ」の方針のもと「遊びを通して生きる力を育てる」「基本的な生活習慣の思いやりを育む」「自然体験を大切にします」「保護者との信頼をもとに」を4本の柱に保育を行なっています。こどもたちが大人から大切にされていることや愛情をもって育てられていることが感じられる保育を提供していきます。周囲の大人との愛着や信頼関係を土台にして情緒の安定が一番と考えるからです。心の安心が生まれるとこどもは自分の課題に向かって自分から発達していきます。

先日、東京大学遠藤利彦先生「すくすくあかちゃんNHKにもご出演されています。」の講演会に参加しました。

「乳幼児期におけるアタッチメントと社会性の発達」について学びました。こどもたちは、怖かったり、不安なとき、泣いて身近な人にくっついて安心を得ようとします。これがアタッチメント=愛着ということです。ネガティブな感情を「くっつき」を通して調整することを繰り返すことで、感情を調節し、安全の感覚を体験し、信頼感や自律性が芽生え、他者と共感できるようになり、こどもの社会性が完成します。乳幼児期からの積み重ねにより、大人になったときでも、人とのかかわり方が分かるようになります。親や保育士にくっついて依存しているように見えるが、愛着関係から安全感を持てているこどもは、自律的に立ち上がりできていくそうです。しかし、愛着関係が確立されていないこどもは、自分の感情を抑えたり、安心できる環境を作ることに不器用で、そのために社会性が欠けてしまうのではという危惧がうまれるそうです。

乳幼児期は、カンガルー時期だといつも話をさせて頂いています。時々お腹の袋にすっぽり入れて心も身体も抱きしめて下さい。甘えるように見えますが、その甘えられることによって自分の存在を確認し、自分が愛されているという安心感、安全基地を心の奥底に築いていくのです。保育者の役割も同じです。一人ひとりの心に丁寧に寄り添って、今起こっている出来事や感情を受け止めて保育をしていきます。

保育へのご理解ご協力有難うございます。年末年始とこどもたちの嬉しいイベントが続く時期ですね。帰省されたり、ご家族で過ごす時間も多と思います。年末の大掃除などこどもたちは大人の真似やお手伝いが大好きです。どんどん頼って下さいね。来年もこどもたちにとって平和で安全な社会でありますように。「写真は、乳児室前の枯葉のプールです。異年齢で混じり合い、兄弟で遊ぶなど、自然な関わりがうまれています。」